



表情をゆがめながらも力いっぱい綱を引きます

## えさし みんなの力を一つに真剣勝負 平成 25 年度奥州市民体育祭綱引競技

平成 25 年度奥州市民体育祭綱引競技（市・市体育協会など主催）が 2 月 23 日、江刺西体育館で開催されました。同大会は、一般男子、一般女子、一般男女混合、ジュニアの 4 部門に分かれ、地元江刺区を中心に 13 チームがエントリー。1 チーム 8 人制のリーグ戦で、熱戦を繰り広げました。

ジュニアの部では、連覇を狙った「チーム上野原魂」に勝利した「岩小ボンボコ」が優勝。どのチームも、会場内からの声援を背に、懸命に綱を引いていました。

## こもがわ 神楽を通し源平合戦を知る 第 3 回南部神楽シンポジウム in 南股

南股地区振興会（菅原英記会長）主催の南部神楽シンポジウムが 2 月 23 日、南股地区センターで開催されました。このシンポジウムは、同地区で盛んな神楽の伝承や後継者育成が目的。3 回目のことは、「神楽で見る源平合戦」をテーマに行われました。

衣川小学校児童有志による「み神楽」に始まり、「鶺鴒越の逆落とし」「一の谷」「小敦盛」など、源平合戦にちなんだ演目を 3 団体が披露。集まった地域住民や神楽ファンからは、大きな拍手が送られていました。



み神楽を披露する衣川小学校児童有志



安全点検をし、診断表を渡す佐々木部長（中央）

## いさわ 火災予防へ各戸回り声掛け 平成 26 年春季火災予防運動

市消防団（千葉昭道団長、団員 1,901 人）による春季火災予防運動が 3 月 2 日、市内各区で一斉に行われました。この日は、火災予防パレードや一般家庭などへの巡回指導を展開。火災の発生防止を訴えました。

胆沢区の第 30 分団第 2 部では、地区内の約 200 世帯以上を訪問し、防火診断表による安全点検を実施。入団 21 年目で部長を務める佐々木浩幸さん（41）は「火の取り扱いには十分に気を付けて」と呼び掛けながら、他の団員と共に各家庭を一軒一軒回りました。

## みづさわ 来場者の目を奪うくくり雛 第 13 回くくり雛まつり

第 13 回くくり雛まつり（同実行委員会主催）が、市まちなか交流館を主会場に 3 月 3 日まで開かれました。この催しは、古くから水沢地方に伝わるくくり雛の継承と普及を目指すもので、主会場のほか、区内 11 会場で開催。民家に伝わるものや、水沢くくり雛保存会会員が制作したものなど、約 800 体が展示されました。

主会場には、ひな壇に親王、三人官女のほか、歴史上の人物など約 270 体を展示。来場者は、その精巧なつくりに関心しながら、いつまでも見入っていました。



来場者の目を楽しませたくくり雛（市まちなか交流館）

## こもがわ

## 小学生が活動の成果を発表

平成 25 年度衣川区ボランティアのつどい



ボランティアの実践事例を劇仕立てで発表する小学生たち

衣川区ボランティアのつどい（衣川ボランティア連絡協議会・市社会福祉協議会主催）が 2 月 19 日、衣川保健福祉センターで開催されました。この日は、関係者や住民など約 60 人が参加。はじめに、同連絡協議会登録の 8 団体が、日頃の活動内容を報告しました。

次に、市立衣川小学校（吉田照彦校長、児童 123 人）の 3 年生 21 人が、総合学習で取り組んだボランティアの内容について発表。4 グループに分かれ、それぞれ地元の高齢者福祉施設や保育所を訪れ交流した様子を劇にして再現しました。まとめて、「ボランティアは相手だけではなく、自分のためになると気付いた」という感想が出されると、会場は温かい拍手に包まれました。

## まえさわ

## 未来のシェフが腕を奮って

前沢牛といわての食材料理コンクール

岩手前沢牛協会主催の前沢牛といわての食材料理コンクール表彰式が 2 月 15 日、プラザイン水沢を会場に行われました。同コンクールは、前沢牛と良質な県産食材を P R するとともに、若手料理人の育成を目的に開催されたもので、今回が 2 回目。この日、エントリーした全国 186 人のうち、残った 9 人が腕を競いました。

最優秀賞に選ばれた三重県相可高校 3 年の大原隆平君は「自分の力が発揮できた。高校最後のコンクールで最優秀賞を受賞できてうれしい」と語っていました。



最優秀賞に選ばれた大原さん（左から 3 番目）



農家と情報交換する参加者

## えさし

## 販路拡大へ自慢の食材 P R

第 1 回江刺ふるさと市場地産地消商談会

地産地消商談会が 2 月 18 日、江刺ふるさと市場で行われました。この商談会は、江刺産直組合（高橋忠夫組合長、組合員 199 人）の主催で、今回が初めての取り組み。江刺りんごや江刺金札米といったブランド農産物のほか、新鮮野菜なども幅広く販路を拡大し、新たなビジネスチャンスを見いだそうというものです。

この日は、同組合の 16 農家が出展。ホテルや飲食店などの関係者 30 人に、手塩にかけて生産した野菜などを積極的に P R していました。